

平成27年度

授業改善プラン

南中野中学校（各教科）の特色

◇今年度の各教科の指導の特色を説明します。

現状分析（成果と課題）

分析内容

各学年

◇中野区学力調査（5教科で実施）を含めた今年度の生徒の現状を分析します。

授業改善プラン

指導上の課題

◇分析結果に基づき、指導上の課題を示します。

授業改善策

◆課題改善に向けた具体的な取り組みを示します。

南中野中学校（国語）の特色

- ◇朝読書の習慣を生かし、読書指導、図書館利用の充実を図り、本に親しむ場を多く設定しています。
- ◇全校一斉の同一問題による漢字コンテストを年一回夏休み後に実施しています。
- ◇古典学習の一環として、教科書に出ている古典作品を暗唱させ、古典を身近なものとしています。
- ◇創作意欲向上のため、読書感想文に全校で取り組んでいます。
- ◇書写では生徒の作品を廊下に掲示し、互いに鑑賞しあっています。
- ◇「スピーチ」を授業に取り入れ、話す態度と聞く態度を身に付けさせています。
- ◇週に1回程度、授業の始めに漢字テストを行い、漢字に関する意欲を高め、確実な定着を図っています。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇中野区学力調査の結果から、教科全体の到達度は「話す・聞く力」「読む力」以外、目標値を上回っています。 ◇「話す・聞く力」では、聞き取った情報を活用するのが苦手な生徒がいます。 ◇「読む力」では、語彙が乏しく、文脈に即した読解が苦手な生徒がいます。 ◇「言語」では、漢字の書き、文法共に、きちんと定着している生徒と、苦手な生徒の差がはっきりしています。 ◇「書く力」では、ほとんどの生徒が条件に合わせて作文することができますが、長文を書くことに苦手意識をもつ生徒が若干います。 ◇教科の基礎的な力は身に付いていても、知識の活用や読み比べなど、応用を苦手とする生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「話す・聞く力」では、集中して話を聞き、聞き取った内容を整理して活用する力を付けさせる必要があります。 ◇「読む力」では、語句の意味の確認をし、文脈に即した内容を読み取る力を付けさせる必要があります。 ◇「言語」では、文法学習、意味調べ、漢字学習共に家庭学習での定着が課題です。 ◇「書く力」では、書きたいことを書くだけでなく、主語と述語のねじれや、文体の統一など、全文の推敲力を高めていくことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「話す・聞く力」では、毎時間の授業の中で、学習内容の情報整理、適切な表現で伝えることを繰り返し行い、力を付ける指導を行います。 ◆「読む力」では、授業の中で語句の意味、文の構造や文章全体の構成を意識させ、内容をまとめる活動を取り入れます。 ◆「言語」では、確認テストをくり返し行い、間違えた箇所の復習を徹底させます。また、家庭学習の方法についても指導していきます。 ◆「書く力」では、条件を明確にし、目的に合わせた文を書く活動を授業で取り入れていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇中野区学力調査の結果から、教科全体の到達度は「言語」以外、目標値を上回っています。 ◇「言語」では、漢字の書き、文法共に、きちんと定着している生徒と、苦手な生徒の差がはっきりしています。 ◇「話す・聞く力」では、集中して話を聞き、内容を整理するのが苦手な生徒がいます。 ◇「書く力」では、長文を書くことに慣れてきましたが、文体の統一、主語と述語のねじれなど、文章を整えることに注意が行かない生徒も若干います。また、作文自体に苦手意識をもち、筆が進まない生徒が若干います。 ◇長文の読み取りは意欲的に取り組みます。字数制限や、条件など細部に注意が及ばず整った答えが完成しない生徒が若干います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「言語」では、文法学習、漢字学習共に家庭学習での定着が課題です。 ◇「話す・聞く力」では集中して話を聞くこと、情報を整理して取り入れ、取り出す力を身に付けさせる必要があります。 ◇「書く力」では書きたいことを書くだけでなく、条件に合わせて一文、全文の推敲力を高めていくことが課題です。 ◇「長文読解」では、要約したり要旨を抜き出した後、条件に合わせて答えを整える「答え方」を確実にすることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「言語」では、繰り返しの確認テストや課題の定着への工夫を行います。家庭学習の方法についても、指導していきます。 ◆「話す・聞く力」では、毎時間の授業の中で、学習内容の情報整理、適切な表現で伝えることを繰り返し行い、力を付ける指導を行います。 ◆書くことでは、目的、条件を明確にし、確認しながら書かせ、推敲する指導を、日常的に行います。また、書いたものを掲示したり、読み合わせを行い、学び合いをしながら、推敲したり表現力を高める指導を行います。 ◆「長文読解」では、読み取りの課題を多角的に行いながら、確実に作者筆者の意意をとらえる指導をしていきます。また、「答え方」の確認をする指導も行います。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇中野区学力調査の結果から、教科全体の到達度はすべての領域において、目標値をクリアしています。 ◇「話す・聞く力」では、聞き手にわかりやすい話し方を理解し、活用することが苦手な生徒がいます。 ◇「書く力」では、グラフなどを読み取り内容を文章化する活動を苦手とする生徒がいます。 ◇「読む力」では、手紙やレポートなどの形式に則した文章の読み取りに苦手意識をもつ生徒がいます。 ◇「言語」では、漢字の書き、文法ともに、きちんと定着している生徒と、苦手な生徒の差がはっきりしています。また、文法に苦手意識をもつ生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「話す・聞く力」では、場面や目的に応じた話し方にはどのような工夫があるかを考えさせ、活用させることに課題があります。 ◇「書く力」では、文章を読んで考えるのではなく、表やグラフを読み取って、それについて論じることに課題があります。 ◇「読む力」では、あまり読み慣れていない形式の文章に取り組みさせる必要があります。 ◇「言語」では文法学習、意味調べ、漢字学習共に家庭学習での定着が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「話す・聞く力」では、授業の中で、様々な場面や相手、目的を想定し、話し方の工夫を考えさせる指導を行います。 ◆「書く力」では、授業の中で、表やグラフから読み取れることを書き出し、内容を文章化する活動を行います。 ◆「読む力」では、手紙やレポートなど様々な形式の文章を読み、形式に沿った書き方を学ぶとともに、それぞれの主旨や内容を読み取る指導を行います。 ◆「言語」では、確認テストや課題の定着への工夫を行い、家庭学習の方法についても指導していきます。

南中野中学校（ 社会 ）の特色

- ◇ワークやプリントを使って学習内容を繰り返し確認し、学習内容の定着を図っています。
- ◇さまざまな事象についての興味・関心を高めるために、一人一人が自分の意見・感想を考えることができるように授業内の発言機会や、宿題での自己表現ができる機会を設定していきます。
- ◇東京税理士会による「税について」の出前授業を実施し、専門職の方から学ぶことができる機会を設定しています。
- ◇日々のニュースや新聞記事による報道に対する、生徒の情報への接し方の指導に力を入れています。知識や情報量を誇るのではなく、それらを取捨選択する力や活用する力を育てていきます。
- ◇「健全な批判力」を身に付けさせるため、社会で起きている事象に関する問いを授業内に入れていきます。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇中野区の学力調査の結果は、基礎問題の正答率は目標値や区の平均正答率に達しています。しかし、活用問題の正答率は目標値を下回っています。問題の内容別正答率では、「日本の工業生産」の正答率が高い一方で、「世界の中の日本」で課題がみられ、大きく目標値を下回っています。 ◇領域別正答率においては、「世界の中の日本の役割」が目標値を大きく下回っています。 ◇観点別正答率では、「社会的事象への関心・意欲・態度」の問題が低いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇社会の事象に興味・関心をもち、自らの考えをもたせ、発言や挙手の機会を増やしていく工夫が必要です。 ◇活用に必要な「知識・理解」の定着を目指し、復習の内容を指導する必要があります。 ◇授業と休み時間のけじめをはっきりさせる授業を展開する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆映像や音声を用いた教材を活用し、生徒の興味・関心を喚起させます。自分の意見や考えを発表する機会を設けます。 ◆思考・判断・表現、技能の力をさらに身に付けさせるためにノート作りの指導を徹底します。 ◆地理的分野で「世界の様々な地域」について、基礎・基本の徹底を図り、世界と日本の比較、世界の主な国々について理解を深める授業を展開します。 ◆小テストを実施し、知識の定着を図ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇中野区の学力調査の結果からは、地理的分野の「地球の姿をとらえる」、「世界各地の人々の生活と環境」の正答率が高い一方で、「ヨーロッパ州」に課題がみられます。 ◇領域別正答率においては、「世界の地域構成」が目標値に達しています。 ◇観点別正答率では、「社会的事象についての知識・理解」が目標値を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業への取り組みはよいが、意欲的に発言する人が特定されています。 ◇活用につながる知識の定着を目指し、単元ごとに関連のある復習の内容を指導する必要があります。 ◇「資料活用の技能」の分野で、グラフや地図の読み取りに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒の興味・関心を喚起するために、ICT機器等を活用していきます。 ◆「社会的事象についての知識・理解」が低いので、ワークやプリントを活用し、学習内容を整理していきます。発問を工夫し、生徒自身の意見を発言する時間を設定していきます。 ◆小テストを実施し、知識の定着を図ります。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇中野区学力調査からは、「問題の内容別正答率」においては、地理的分野の「世界と比べた日本の人口」、「身近な地域の調査」、および歴史的分野全般で区と全国の正答率を超え、理解が進んでいることがわかりました。観点別正答率でも、全観点に置いて目標値を超えています。 ◇課題となるのは、「日本の地域構成」「日本の諸地域」で、目標値を約3ポイント下回っているところです。 ◇歴史的分野に対する興味・関心は高く、授業中の発問に対する回答も活発です。興味・関心が偏ることなく社会科の3分野全体について、意欲的に学習を進め、理解していくことが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学年が進行するにともない、社会科学習に対する興味・関心が薄れる傾向にあります。公民的分野では、特に経済についてその傾向が見られます。「社会的事象に対して自分がどう思うか」という視点を大切に、具体的事例を教材に取り上げて授業を進めていく必要があります。 ◇単元ごとに復習をさせ、「知識・理解」の基礎の定着を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部講師を招いた授業や視聴覚教材を利用して理解を深めさせ、ゲーム形式の教材を利用してグループ学習や話し合い学習をとおして、自分の意見や考えを発表することでより理解を深めさせます。 ◆思考・判断・表現、技能の力をさらに身に付けさせるためにノート作りの指導を徹底します。 ◆復習のプリント等を利用して繰り返し身に付けさせる指導を実施します。 ◆入試問題を紹介していくことで知識の活用方法を伝えていきます。

南中野中学校（数学）の特色

次の3点を特に意識しながら日々の活動を進めています。

- (1) 計算は、反復練習に力を入れ、速く、正確に解く力を養います。
 - (2) 数量の関係や図形の性質などを考察し、見いだしたことは根拠をもって表現する力を育みます。
 - (3) 数学的な考え方で解決できる問題に積極的に取り組み、数学の楽しさを実感させます。
- ◇1, 2年は、習熟度に応じた少人数授業により、基礎・基本の確実な定着と、個に応じた指導の充実を図っています。
- ◇教科書だけではなく、生徒の日常生活にも関連した題材を教材化し、活用しながら授業を進めています。
- ◇授業では、互いの考え方を尊重し、よりよい解決策を検討したり、発表しあったりする環境づくりに努めています。
- ◇夏季休業中には補習学習を行い、学習内容の深化・補充を図っています。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン		
分析内容		指導上の課題	授業改善策	
1年	◇多くの生徒が積極的に授業に参加し発言も多いです。毎日の家庭学習の課題も意欲的に取り組んでいます。	◇少人数習熟度別授業における効果的な指導方法及び教材の工夫が必要です。	◆少人数習熟度別授業を利用して毎時間多くの生徒の考えを聞き、皆で考える時間を作ります。	
	◇中野区学力調査において、校内平均正答率は、目標値をほぼ上回っている、または同程度の結果が得られています。活用観点でも目標値を大幅に上回っており、思考判断力、表現力ともに一定の定着が見られます。基礎的な技能の定着をより一層図り、より多くの問題に取り組む機会を充実させます。			◆放課後に補習を行い、個別に勉強方法をアドバイスし、わからない問題を一緒に解決していく場面を設定します。
	◇多くの生徒は授業の取組がよく、まじめに参加しています。反面、二極化傾向も見られ、課題への取り組みやノートを使い方について課題がある生徒もいます。			◆多様な考えが見いだせる課題の設定や説明する場面・発表する場面を意図的に設定し、思考力・表現力の育成を図ります。
2年	◇中野区学力調査において、校内平均正答率は、目標値をほぼ上回っている、または同程度の結果が得られています。ただし、区平均正答率と比べるとほとんどの項目で数値が若干低くなっています。活用観点の思考判断力については一定の定着が見られますが、数学的な技能や知識理解には課題が見られます。基礎基本の一層の定着が必要です。	◇少人数習熟度別授業における効果的な指導方法及び習熟度に応じた教材の工夫が必要です。	◆少人数習熟度のよさを最大限活用した授業を展開していきます。また、関心・意欲を高める導入教材を取り上げていきます。	
	◇多くの生徒は授業への取組は大変よく、まじめに参加しています。自分の意見や考えを積極的に発言していくことに課題が見られます。	◇数学を特に苦手とする生徒の関心・意欲を高め、基礎基本を定着させるための指導方法の工夫が必要です。	◆放課後に補習を行い、個に応じた勉強方法を探り、理解しづらい問題等を一緒に解決していく場面を設定します。	
	◇中野区学力調査において、校内平均正答率は、目標値をほぼ上回っている、または同程度の結果が得られています。特に数学的な技能では目標値を大幅に上回っているも多く、計算が定着していると考えられます。課題としては、思考・判断力や知識理解の定着、見方考え方の育成であり、数学を活用する力を付けていくことが必要であると考えます。	◇繰り返し練習を通して、基礎的な計算力の定着をさせるための指導の工夫が必要です。また、誤答の場合の直しをさせる指導が必要です。	◆多様な考えを見いだすことのできる課題の設定や説明する場面・発表する場面を意図的に設定し、思考力・表現力の育成を図っていきます。	
3年	◇多くの生徒は授業への取組は大変よく、まじめに参加しています。自分の意見や考えを積極的に発言していくことに課題が見られます。	◇文章問題をよく読んで、内容を理解し、表・図などに整理し筋道を立てていけるような表現力・思考力を育てる必要があります。	◆文章問題に慣れるような簡単な問題から複雑な問題の教材の開発をします。また、文章の関係を表・図などに表し解法の仕方を助言していきます。	
	◇中野区学力調査において、校内平均正答率は、目標値をほぼ上回っている、または同程度の結果が得られています。特に数学的な技能では目標値を大幅に上回っているも多く、計算が定着していると考えられます。課題としては、思考・判断力や知識理解の定着、見方考え方の育成であり、数学を活用する力を付けていくことが必要であると考えます。	◇問題をいろいろな方法で解いていくこと・途中式を書くこと・見直しをしていくことを授業中に指導する必要があります。	◆学力の定着と家庭学習の定着を図るために、課題プリントを週4回出し、確認して返却します。	
	◇基礎問題では苦手な生徒、発展問題では好きな生徒どちらにも解く喜びを与えるプリントを作成する必要があります。	◆基礎学力が定着していない生徒・補習希望の生徒のために長期休業中に補習授業を実施します。		

南中野中学校（理科）の特色

- ◇1、2年生の授業の一部では1学級2展開の少人数授業を行い、個別実験を行うなどきめ細かな指導を行います。
- ◇学力向上アシスタントや観察・実験アシスタントを配置し、個別支援や観察実験の授業の充実を図っています。
- ◇視聴覚機器やパソコンを活用し、わかりやすい授業を心がけています。
- ◇授業の内容をノートにまとめ直すことで、知識の定着を図っています。
- ◇ワークシートやノートを定期的に回収・評価して、継続的な学習への意欲付けを行っています。
- ◇教科書の課題実験だけでなく、発展的な実験を多く行い、観察力、実験力を高めます。
- ◇重要な実験機器の取り扱いについてパフォーマンステストを実施し技能の定着を目指しています。
- ◇単元末にワークを行うことで、知識理解度の把握・自己評価を行っています。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇理科に関する興味・関心が高く、基礎的知識が定着している生徒が多い。 ◇中野区の学力調査では、平均正答率が全領域的に区の平均程度またはそれ以下ではあります。しかし水溶液の範囲に関しては、区の平均を上回っています。全体的にみますと、生物・地学分野のほうが正答率が高いです。 ◇観点別正答率を見ますと、「思考判断」「知識理解」は区の平均を超えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇目に見えない分野「物理」などを、どのようにして目に見えるように工夫をするのが課題です。 ◇知識・理解はあるものの問題文に対してどのような答えが必要になっているのかというプロセスを構築していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆目に見えない事象を絵や数式で表したり、イメージをする工夫を行ったりしていきます。 ◆言葉の意味だけをとらえるのではなく、理由や原理を踏まえ理解させる活動を増やしていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇観察・実験への意欲・関心が高く、与えられた課題を一生懸命取り組むことができます。 ◇中野区学力調査では、「光・音・力」の単元はほとんどの問題で正答率が目標値を超えています。 ◇正答率が区の目標値とほぼ同じ程度の問題が多いですが、「植物の分類」や「状態変化」など20%近くも下回っている問題もあります。 ◇記述式問題の無解答率が50%を超えている問題もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇問題によって極端に正答率が低くなっていることから、単元毎の理解度・定着度の確認が徹底されていません。 ◇生徒が思考した内容をワークシート等へ記述・表現する機会が少ないです。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆小単元毎に小テストやノート・ワークチェックを定期的に行い、生徒のつまずきに対して早期に対応できるようにします。 ◆授業中に知識を活用する課題への取組を増やしたり、思考したことを表現する機会を多くしたりすることで、表現力を養っていきます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇目の前の課題に対して、高い意欲で取り組むことができます。家庭での学習習慣も定着しつつあります。 ◇中野区の学力調査では、各単元正答率を区の目標値と比較すると、「化学変化と原子・分子」が2.3%上回っていますが、「動物の生活と生物の変遷」では7.4%下回っています。単元によって、理解度・習熟度にばらつきがあることがわかります。 ◇観点別正答率を見ますと、「観察・実験の技能」は、区の目標値を上回っていますが、「自然事象についての知識・理解」は下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「消化酵素」「電磁誘導」といった語句を答える問題が軒並み正答できていないことから、各単元の基礎基本となる知識理解を復習させることや、定着させる「繰り返し学習」をしていくことが足りていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業最初の5分間を用いて小テストやワークシートチェック等を行います。このことにより、授業ごとの形成的評価を細かく実施し、生徒の定着度を常に把握します。 ◆月に1回のペースで復習単元テストを行い、家庭学習を中心に復習する習慣の定着をはかります。

南中野中学校（音楽）の特色

- ◇学校行事（合唱コンクール、卒業式、入学式等）で合唱をする場面で、クラス合唱、学年合唱、全校合唱を行っています。
- ◇和楽器の箏に各学年取り組み、簡単な奏法を身に付けさせます。
- ◇器楽（アルトリコーダー）の練習は親しみやすい曲を課題にし、意欲的に練習しています。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲的に歌唱に取り組んでいる生徒が多くみられます。 ◇プリント学習の取組には、個人差があります。 ◇鑑賞や器楽の授業に熱心に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲を技術（男声、アルトの音程やリズム、響きのある発声法）の向上につなげていく必要があります。 ◇器楽の基礎の奏法を親しみやすい曲で確実に身に付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆演奏すべき音をなるべく早く覚えられるように、1回1回の音に集中させます。また、上級生の合唱や範唱から学ぶ場面を増やし、自分の歌唱技術の目標をもたせます。 ◆振り返りしやすい学習シートを工夫し、定期テストの学習に役立たせます。 ◆一人ずつ音を出させる機会をもち、基本練習を確実に行わせます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲的に歌唱に取り組んでいる生徒が多いです。表現しようとする能力を向上させる意欲をさらにもたせていく必要があります。 ◇提出物は改善が見られますが、内容をさらに充実させることが必要です。 ◇鑑賞や器楽の授業には熱心に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲を技術の向上につなげていく必要があります。 ◇パート練習の内容を工夫させ、表現技術の向上を目指します。 ◇器楽の課題を確実に習得させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆演奏すべき音をなるべく早く覚えられるように、1回1回の音に集中させます。範唱から学ぶ場面を増やし、自分の歌唱技術の目標をもたせます。 ◆振り返りしやすい学習シートを工夫し、定期テストの学習に役立たせます。 ◆親しみやすい教材を課題として練習させます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇歌唱への意欲が高くなり、熱心に取り組む生徒が増えてきています。表現しようという意欲が技術の向上につながっています。 ◇定期考査の取組が前向きになってきています。 ◇器楽（アルトリコーダー）では基本の奏法はほとんどできています。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の声で表現できることの幅をさらに広げられるようにします。 ◇定期考査の学習のポイントを着実につかませます。 ◇器楽の課題を確実に習得させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆合唱コンクールの練習を通して、表現の工夫すべきポイントを伝えます。また、楽譜の知識を理解させ、それを表現できるようにさせていきます。 ◆振り返りやすい学習シートを工夫し、定期テストの学習に役立たせます。 ◆練習の機会を何度も設けます。

南中野中学校（ 美術 ）の特色

- ◇基礎となる知識・技術を身に付け、根気強く丁寧に制作し、思い描いたものを高次元で実現することにより、表現する喜びを味わう事を目指しています。
- ◇作品完成後には相互鑑賞会を行ない、お互いの作品のよさを発見し、伝え合うことにより制作意欲の向上につなげられるようにしています。
- ◇対話による鑑賞授業を取り入れ、作品を深く味わい美術に親しむ工夫をしています。
- ◇美術ファイルを作り、過去のワークシートや資料、テストを振り返り復習ができるようにしています。
- ◇木彫刻の授業では継続性、発展性のある題材で、段階的に質の高い作品作りができるようにしています。
- ◇ポスター制作ではインターネットを活用し調べ学習をして、課題を正しくとらえて制作ができる工夫をしています。
- ◇作品鑑賞や導入スライド、デジカメを活用した制作などICTを積極的に取り入れた授業を行っています。
- ◇校内作品展、美術室や廊下の展示で多くの作品に触れる機会をつくり、制作意欲が高まるようにしています。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇小学校から図工が好きだった生徒が多く、美術に対しても好奇心と期待をもって授業に臨んでいます。 ◇発言が積極的だが、落ち着かない部分もあります。 ◇地道に丁寧な作業を続けることが苦手で、集中力が続かない生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇美術に対する関心の高さを維持しつつ、授業規律を徹底し、落ち着いて話を聞き、丁寧な作業ができる環境を作り上げる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題を丁寧に取り組む事による成果をスライドや掲示物、生徒作品の例示により視覚的に示し、作業意欲の持続を図ります。 ◆写真資料などを多用することによって作品の具体的なイメージ、制作の見通しが立てやすいようにします。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇落ち着いた授業を実施できています。殆どの生徒が真面目に制作に取り組んでいます。 ◇単純作業で成果が実感できる事に対して意欲的に取り組むことができているますが、丁寧な作業や考えて取り組む事に対して集中力が無く、苦手意識をもっています。 ◇作業に飽きてくると、雑談をする生徒が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇丁寧な作業をすることによってどんな成果が得られるか体験させる必要があります。授業の中で主体的に考える取組も積極的に取り入れるべきだと思われます。 ◇大切な指示をポイントをおさえて聞かせる工夫が必要です。 ◇授業規律を守り、誰もが集中して作業できる環境をつくる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の段階ごとに作品のチェックをし、スモールステップで作業した成果を実感し、確認できるものにします。 ◆導入、ポイントの指導、鑑賞会などでパワーポイントやスライドを積極的に活用し、関心を持って指示が頭に入るようにします。 ◆1つの作品について制作期間を短くし、作品数を増やすことによって、集中力の持続が難しい生徒も最後まで集中して制作できるようにします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲的に授業に参加し、集中して制作に取り組む生徒が殆どです。作品にはそれぞれ努力と工夫が見られます。 ◇話をきちんと聞く習慣が身に付いており、指示に従って真面目に制作をすることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇より深い制作活動ができるように、柔軟な発想で幅広い表現への挑戦を促すような指導の工夫が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆導入のスライド資料でより多くの資料、作例、を活用し、制作前のワークシートと作品作りを通じて自分を見つめることができるような工夫をします。

南中野中学校（保健体育：男子）の特色

- ◇集団行動やラジオ体操を年間を通して実施します。
- ◇体力向上のため、授業導入時のランニングやトレーニングに力を入れます。
- ◇ダンス（南中ソーラン）は、運動会で3年生が3年間の積み重ねの成果を発表します。
- ◇毎時間の授業記録表の記入や授業カードの活用で、生徒一人一人がよく考えて授業に取り組めるようにします。
- ◇1時間中の生徒一人一人の運動量をできるだけ多く確保する授業展開を工夫します。
- ◇中野区が推奨するフラッグフットボールを各学年取り組みます。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇集団行動の基本的習慣が身に付いていない生徒や、話を聞くことができない生徒がいます。 ◇意欲的に取り組める生徒とそうでない生徒の差が大きいです。 ◇基礎体力が不足している生徒や運動能力が低い生徒がいます。 ◇筆記試験では学習方法がわからない生徒が多く得点が伸びていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇集団行動の意識付けが必要です。 ◇きちんと話を聞ける体勢づくりが必要です。 ◇個々の生徒のもつ課題の明確化が必要です。 ◇基礎体力をより高めるためトレーニングの工夫が必要です。 ◇運動に対する知識・理解がしっかりと身に付いていない生徒が多くいるので記録表に書かせて確認する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆集団行動や話を聞く姿勢作りを繰り返し行っていきます。 ◆授業中や授業記録表に教師からのアドバイスや生徒同士のアドバイスを実施する事で、個々の課題をはっきりとさせます。 ◆体ほぐし運動と基礎体力、基礎筋力を高める運動を毎時間実施していきます。 ◆授業中に前時の確認をすることや再テストを行うことで知識・理解の定着を図ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◇集団行動の基本的習慣が身に付いている生徒と集中力が欠けやすい生徒に差があります。 ◇意欲的に取り組める生徒が多く、しっかりと話しを聞く態度が身に付きつつありますが、集中力が足りない生徒もいます。 ◇この1年間で基礎体力も徐々にありますが、持久力、柔軟性、敏捷性、スピード、持久力、跳能力、投能力が不足しています。 ◇昨年の筆記試験では、取組の甘さから基礎知識が身に付いておらず、定期試験での得点が伸びませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇きちんと話を聞ける体勢づくりが必要です。 ◇集中するために、互いに声かけをして場の雰囲気を感じ、判断力を養うようにする必要があります。 ◇個々の生徒のもつ課題の明確化が必要です。 ◇基礎体力をより高めるためトレーニングの工夫が必要です。 ◇運動に対する知識・理解の繰り返しが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆落ち着いた話を聞く姿勢作りを繰り返し行っていくと共に、生徒同士の注意やアドバイスに力を入れ、自分たちから集中して授業に取り組む姿勢を身に付けさせます。 ◆授業中や授業記録表に教師からのアドバイスや生徒同士のアドバイスを実施する事で、個々の課題をはっきりとさせます。 ◆体ほぐし運動と基礎体力、基礎筋力を高める運動を毎時間実施していきます。 ◆授業中に前時の確認をすることや再テストを行うことで知識・理解の定着を図ります。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◇集団行動の基本的習慣が身に付いている生徒と集中力が欠けやすい生徒に差があります。 ◇生徒一人一人の意識の変容から、意欲的に授業に取り組んでいます。 ◇この2年間で基礎体力が付き、区平均より高い傾向ですが、柔軟性などは低い傾向にあります。 ◇部活動を引退すると体力が落ちる傾向があります。 ◇筆記試験では、意欲的に取り組んでおり、定期試験の得点が伸びてきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自己の体力や運動に関心をもち、課題をはっきりさせることが必要です。 ◇課題解決のために、自ら考え行動する、思考力や判断力を養うことが必要です。 ◇基礎体力をより高めるためトレーニングの工夫が必要です。 ◇運動に対する知識・理解の繰り返しの徹底が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己の能力に応じた運動の機会を与え、興味・関心を高め活動させていきます。 ◆授業中や授業記録表に教師から生徒同士のアドバイスを実施する事で、個々の課題をはっきりとさせ、課題解決に必要な思考力や判断力を養います。 ◆体ほぐし運動と基礎体力、基礎筋力を高める運動を毎時間実施していきます。 ◆授業中に前時の確認をすることや再テストを行うことで知識・理解の定着を図ります。

南中野中学校（保健体育：女子）の特色

- ◇集団行動やラジオ体操などを年度当初に身に付けさせ、授業規律を確立します。
- ◇ダンス（南中ソーラン）は、運動会で3年生が3年間の積み重ねの成果を発表します。
- ◇毎時間の授業記録表の記入や授業カードの活用で、生徒一人一人がよく考えて互いに助言し合い、言語活動を充実させた授業を行えるようにします。
- ◇1時間中の生徒一人一人の運動量をできるだけ多く確保する授業展開を工夫します。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲的に授業に取り組んでいます。 ◇体力の要素では、筋力、柔軟性、投能力、瞬発力・全身持久力が不足しています。 ◇全体的に落ち着いて話を聞くことができますが、説明した内容が理解できず、その動きをイメージすることができない生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話をより理解するために記録を書かせて確認する必要があります。 ◇運動経験が少ない生徒が多くいるのでトレーニング方法の工夫が必要です。 ◇運動に関する知識・理解をしっかりと身に付けさせるため、記録表やノートに書かせて確認する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業中の集合や話を聞く姿勢作りを繰り返し行い、身に付けさせます。 ◆授業中や授業記録表での反省に対する個々へのアドバイスを実施する事で、課題をはっきりとさせます。 ◆体ほぐし運動と体力を高める運動を毎時間実施し、基礎体力が身に付くようにします。 ◆ノートに身体の動きやポイントを書かせ、知識・理解が身に付くよう取り組ませます。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇意欲的に授業に取り組めない生徒がいます。 ◇落ち着いて話を聞くことはできますが、集中力が少し欠けています。その結果、同じ質問をすることが多々あります。 ◇全体的に運動能力は平均的です。 ◇体力の要素では、柔軟性、投能力が不足しています。持久力は個人差が大きく、能力の高い生徒と低い生徒が二極化しています。 ◇昨年実施した定期テストでは学習方法が身に付いていない生徒がいました。学習の成果を発揮した生徒と、学習不足の生徒との差がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話をしっかりと理解できない生徒がいるので、理解するまで確認する必要があります。 ◇基礎体力が不足する生徒が多くいるので、様々な運動の特性を捉えたトレーニングの工夫が必要です。 ◇運動に関する知識・理解がしっかりと身に付いていない生徒が多くいるので、テストを踏まえて指導する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業規律を徹底させます。 ◆各単元ごとの目標を明確にすることや、個々の課題をはっきりとさせることで様々な運動の特性を理解させます。 ◆基礎体力を高めるため、身体ほぐし運動と補強運動を毎時間実施し、筋力・全身持久力が付くようにします。 ◆授業中での授業記録表や小テストの実施などを繰り返し行うことで、知識・理解の定着を図ります。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇全体的に意欲的に授業に取り組む姿勢が多く見られます。 ◇体力の要素では、柔軟性・投能力が不足しています。全身持久力は東京都平均値よりやや高いです。 ◇全体的に運動能力は高いです。 ◇自分たちで考え、話し合いながら学習活動に取り組むことができます。 ◇定期テストでは学習方法が身に付き、勉強の成果を発揮した生徒と、勉強不足の生徒との差がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話をしっかりと聞くことはできますが、理解できない生徒がいるので、理解するまで確認する必要があります。 ◇集中するために、互いに声かけをして場の雰囲気を感じ、判断力を養うようにする必要があります。 ◇運動に関する知識・理解がしっかりと身に付いていない生徒が多くいるので、テストを踏まえて指導する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆リーダーを中心に自ら授業に臨む姿勢を徹底させ、授業規律を徹底させます。 ◆お互いにアドバイスをし合い、各単元の目標を意識した活動が自らできるようにします。 ◆基礎体力を維持し、個々の能力に応じて課題を設けることで、調整力や巧緻性を高めます。 ◆授業中での授業記録表や小テストの実施などを繰り返し行うことで、知識・理解の定着を図ります。

南中野中学校（技術）の特色

- (1) ものづくりやパソコン実習など、実践的な作業を伴う授業を多く取り入れることにより、授業に対する興味・関心を高め、考える力を養い、問題解決能力の育成を図ります。
- (2) 作業の進め方や工具の使用法など、情報分野にかかわらずすべての分野で、ICT機器を活用し、わかりやすい授業を行います。
- (3) パソコンやスマートフォン、携帯電話の使用法を日常生活の中の問題点と絡めながら、情報モラルや情報活用能力を育成していきます。
- (4) ものづくりの実習の中で、資源の有効利用やエネルギー問題など環境教育を実践していきます。
- 〈主な指導内容〉
- 1年 … 木材を使ったCDボックス製作、PCの活用（図形処理）
- 2年 … 電気のしくみ、エネルギーの活用と変換、エコブレーキ製作、PCの活用（文書作成）
- 3年 … 栽培、PCの活用（文書作成応用・表計算・マルチメディアの活用）、マグカップ製作

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<p>◇立体を想像し、イメージする力が苦手な生徒が見られます。</p> <p>◇生活の中で自らものを作ったり、こわれたものを直したりという経験が少なくなり、工具の種類や使用法を知らない生徒が多く見られます。</p>	<p>◇立体を空間的にとらえられることが必要です。</p> <p>◇生活の中で活用できる実技実習を心がけ、工具の使用法や修理の方法などを習得させることが必要です。</p>	<p>◆立体の展開のイメージを想像しやすくなるよう、ICT機器を活用して視覚的に展開図を示し想像力を高めます。</p> <p>◆家庭において身近な修繕箇所や危険なところなど問題点を気づかせ、その解決法を生徒に考えさせながら問題解決能力を養っていきます。</p>
2年	<p>◇普段の生活の中で、待機電力やエネルギーの浪費に対して関心があまりないように思われます。</p> <p>◇インターネットやメール、SNSから得られる情報を、安易に信用してしまう傾向があります。</p>	<p>◇生活の中の無駄に消費しているエネルギーを探り、省エネの気持ちを養うことが必要です。</p> <p>◇1つの情報だけを信用せずに、様々なメディアや信用できる情報を自らが確認することが必要です。</p>	<p>◆化石燃料の可採年数を理解し、原子力発電の是非や新たなエネルギー政策について、生徒自ら考えさせ論じさせます。</p> <p>◆情報の真偽を確かめる方法や、情報の検証を行う授業を展開し、メディアリテラシーを身に付けさせます。</p>
3年	<p>◇小学校時、アサガオやヘチマの栽培を経験していますが、家庭で農作物の栽培を経験している生徒は少なく、土いじりや害虫駆除に抵抗を示す生徒が見受けられます。</p> <p>◇素早く作品を製作させ、ある程度完成してしまうと、それ以上の工夫をあきらめてしまう生徒が見受けられます。</p>	<p>◇私たちが食べている作物はすべて、手入れや世話をを行うことにより、立派に実らせることができることを経験により学ぶことが必要です。</p> <p>◇自分では気が付かない作品の問題点に気付かせ、改善させるなど、さらに工夫やアイデアの創造性を伸ばすことが必要です。</p>	<p>◆世話や手入れを行った作物と、全く行わなかった作物を比較し、成長の度合いを実際に確かめることにより、食品として適した農作物を作ることの苦労と大切さを学び、自分で育てるおもしろさを経験させます。</p> <p>◆個々の技能にあわせた到達目標を自分自身で設定し、時間のある限り修正・工夫を行い完成作品を相互評価させることで、さらなる技能向上を図ります。</p>

南中野中学校（ 家庭 ）の特色

◇落ち着いた授業環境である現状を踏まえ、「話しをしっかりと聞く」「課題に集中して取り組む」「達成感を味わえる」習慣を身に付けさせます。そのためには、

- ① 生き生きと生活を楽しめる工夫ができる生徒
- ② 意欲的に自らの課題を探りだそうとする生徒
- ③ 自分の周囲の生活環境について前向きな実践を創造できる生徒

以上の生徒の育成を目指します。

また、具体的な各学年の手立てとして

1年生・・・食物について理解した実習計画から「調理実習」を実践し、家庭での課題を達成します。

2年生・・・衣服の簡単な手入れと補修を実践し、住生活でも使える「非常用持ち出し袋」を製作します。

3年生・・・自分自身の成長を振り返るレポートを作成することで、家族とのかかわりや幼児の体や心の発達について理解し、幼児と安全に遊べる「おもちゃ」を考え製作します。

以上の具体的な目標が達成できるよう取り組み、南中野中学校の家庭科の特色とします。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	◇小学校からの流れを受けて、「食物」を扱う「食生活と自立」を最初に計画しました。食への興味・関心を強くもって積極的に取り組んでいます。	◇自分の食生活を振り返る授業から、現在食べている食品への興味関心を高めさせることが必要です。家庭でも自分で献立から考え、調理できる課題を考えさせることが必要です。	◆高い意欲関心を活かした指導計画を立て、さらに家庭での実践につながる指導をしていきます。
2年	◇製作に入ると集中して活動できる生徒も多く、製作を通して達成感を味わうことができます。住生活に関連した非常用持ち出し袋を製作することで、積極的に防災に対して考えることができます。	◇手先や体を動かす体験的な実習時間の工夫を考え、経験を増やして技術を向上させ家庭での実践ができるように考えさせることが必要です。	◆家庭での実践へつながる楽しい課題を考え、手や体を動かす体験を多く取り入れた実践を増やします。
3年	◇自分自身の成長を振り返るために乳幼児期について家族から話を聞くなど積極的に取り組んでいます。ものづくりに関心が高く、一人一人が質の高い乳幼児のおもちゃ作りへの取組に期待がもてます。	◇幼児が安全に楽しめるおもちゃを考え、製作するために、自分の成長過程を思い出し、幼児について基礎的な理解をさせる必要があります。	◆おもちゃ製作の過程で、教師からの声かけや助言を多く増やし、作品への工夫や製作への努力が表現できるように取り組ませます。また保育園との連携を取り、実際の幼児の様子を知ることで、関心を高めさせます。

南中野中学校（英語）の特色

- ◇1、2年生は、1クラス2展開の少人数・習熟度別授業を実施しています。
- ◇基礎コースは、反復練習を行うことにより、教科書の内容理解と文法力の強化を目標にしています。
- ◇標準コースは、表現活動を取り入れながら、教科書の内容理解に加えて、標準的な課題に取り組む力を付けることを目標にしています。
- ◇夏休みには夏期補充教室を行っています。
- ◇希望者を募って、本校を会場にした実用英語技能検定（英検）を年3回、実施しています。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◇どの生徒にも関心・意欲が見られ、積極的に学習に取り組む姿勢が見られます。 ◇小学校での学習を活かして、積極的に英語を使おうという姿勢が見られます。 ◇「書くこと」の練習不足から、つづりの間違いが見られます。 ◇文法を体系的にとらえ、応用することにまだ不慣れです。 ◇定着のプロセスが確立していない、学習の進め方が定着していない生徒が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「予習」→「授業」→「家庭学習」→「定着の確認」→「補習」のサイクルを確立する必要があります。 ◇ワークシート等を使用して、体系的な捉えに慣れる必要があります。 ◇英語を使うことに積極的な環境を作る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆副教材の活用、授業内で変化をもたせる、等工夫しながら、積極的な英語の使用を引き続き推奨、支援していきます。 ◆单元ごと単語・基本文テストを行い、学習の定着度をフィードバックします。 ◆ワークシート等を活用し、既習事項と関連付けながら違いを捉えられるよう工夫していきます。 ◆外国人講師を活用しスピーチ活動を積極的に取り組みます。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇「予習」→「授業」→「復習」のサイクルが習慣化されてきている生徒が増えました。 ◇中野区学力調査ではほとんどの項目で目標値、区内平均値に達していましたが、「場面に応じての英作文」において平均を下回りました。様々な場面を設定したアクティビティ等を授業内により取り入れていく必要があります。 ◇文法を体系的にとらえ、表現することにまだ不慣れです。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇個別の学習の定着状況を定期的に確認する必要があります。 ◇学んだ文法事項を体系的に捉えるだけではなく、場面設定をしたうえでアウトプットしていける授業作りをしていきます。 ◇“Show & Tell”等のスピーチ活動にも力を入れていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自作ワークシート、ワークブック等を使用して1年からの基礎・基本の定着を徹底させます。 ◆英作文の指導においても、しっかりと場面設定を行い、イメージをもたせるようにしていきます。 ◆対話文を中心とした実践的なアクティビティを積極的に取り組んでいきます。 ◆外国人講師を活用し、スピーチ活動を取り入れていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ◇「予習」→「授業」→「定着の確認」のサイクルがほとんどの生徒に確立されています。 ◇最上級生として上級学校進学を見据え、意欲的な授業態度で臨んでいる生徒が多く見られます。 ◇中野区学力調査では、経年比較した際に、今年度の平均正答率はほとんどの項目で上がっています。ただし、区平均正答率と比べると数値が若干低くなっています。基礎基本の一層の定着が必要です。 ◇同アンケート調査では、「英語の文章は音読をするようにしている。」の項目において「よくあてはまる」と答えた生徒の数が、区の平均値を上回りました。授業時の音読指導をさらに充実させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇基礎力のいっそうの定着と同時に応用力を身に付けていけるような授業を展開していく必要が有ります。 ◇入試でのリスニング問題に対応することができる聞き取る力をさらに向上させる授業作りをしていきます。 ◇習得した文法、語彙を用いて意欲的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が必要です ◇スピーチ活動にも力を入れていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本文についてのQ & Aを通して、聞き取る力、文法力、会話力のいっそうの向上を目指します。 ◆音読指導の仕上げとして教科書本文の暗唱を班ごとに実施します。 ◆Oral Practice というワークシートを单元毎に作成し、既習の英文を繰り返し使うことで、インプットの量を増やします。 ◆長文問題に取り組みせ、応用力実践力を付けていきます。 ◆各セクションの小テスト、单元テストを実施し、学習の定着状況を確認します。 ◆外国人講師を活用し、スピーチ活動を取り入れていきます。